

第2回「^{あす}明日の仙台塩釜港を考える懇談会」の概要

<懇談会の趣旨>

県では、学識経験者や港湾関係者等を構成員とする「明日の仙台塩釜港を考える懇談会」を立ち上げ、今後の仙台塩釜港の目指すべきあり方について検討を進めているところです。

昨年5月に開催した第1回懇談会を踏まえ、仙台塩釜港が今後取り組むべき課題を整理するため、以下のとおり第2回懇談会を開催しました。

<概要>

- ・日 時：令和5年2月7日（火）午後3時から午後5時まで
- ・場 所：ホテルグランドパレス塩釜 3階 平安I東・南
- ・出席者：学識経験者，経済団体，港湾関係者，国・関係市町（全27名）
※対面とweb参加を併用して開催。
- ・内 容：仙台塩釜港が今後取り組むべき課題について

<主な意見>

論点：物流 に関連する事項

共通事項

1. 1970年代の計画をもとに施設が整備され、50年間で船舶の大型化が進むなど、港湾の機能を維持するためにも対応が必要である。
2. 適正な水深が確保できないと物流・防災面で支障が生じるため、対応を要する。
3. 経済成長が見込まれる東南アジアの鉱物資源・水産資源の需要が注目されている。特にインドネシアは2050年にGDP世界第4位になる予測がある。
4. ソフト面では、なぜ仙台塩釜港が良いのかマーケティングが必須。ターゲットとする品目、荷主、荷物のポジショニング、在庫の持ち方などの分析が大事である。
5. 内航フィーダーの重要性も勿論であるが、利用者からは外航ダイレクト航路のニーズも底堅い。
6. 各港区の機能分担について、コンテナとユニットロードは仙台、バルクは石巻と塩釜の仕分けであるが、今後のBCPやモーダルシフトなどの変化によっては、一部の機能分担の見直し検討があっても良いと考える。特にRORO船は役割分担が必要ではないか。

課題①高砂コンテナターミナルの機能強化

1. コンテナの農産品、食品の輸出が今後伸びると見込まれるため、ニーズに合わせたポートセールスと、冷蔵倉庫の整備などコールドチェーン構築が大事になる。
2. 北米ダイレクト航路の再開は非常に重要である。米中のデカップリングや日米の経済安全保障が関連し、最先端品（半導体、半導体機械、EV関係）などが中国へ輸出しづらくなると、アメリカへの輸出が増えてくる可能性が考えられる。
3. コンテナ貨物の長期需要が期待される中で、高砂コンテナターミナルの蔵置ヤード拡張やトランスファークレーンの整備方針は明示すべきである。

課題②ユニットロード貨物取扱機能の強化

1. 仙台港区中野地区では、ROROやフェリー埠頭及びバルク貨物が混在しており、対策を検討していく必要がある。

課題③バルク貨物の取扱機能強化

1. 塩釜港区の課題として、水産加工の街を踏まえ、環境にあわせた港づくりが必要である。
2. 石巻港区釜地区飼料団地の、雲雀野地区への移転計画について、30年以上経過しており、整理・協議が必要ではないか。

論点：防災 に関連する事項

共通事項

1. 養殖いかだへの船舶衝突など、漁業被害が5年連続で発生しており、受け入れ体制をしっかりとしてほしい。
2. 松島は観光港であり中小型の船舶が相手となる。松島湾の浚渫を定期的に行ってもらってはいるが、航路上に浅いところがあり、優先度を見直してほしい。

課題④国際戦略港湾の支援も視野に入れた広域的な防災港湾の体制強化

1. 防災面から、中野・高松では複数種類の貨物・船舶が混在しているため、RORO船対策としてバース整備を推進してほしい。
2. 雲雀野地区の水深12m耐震岸壁を早急に進めてほしい。

課題⑤海面処分用地の確保検討

1. 水深確保のための浚渫は関係者共通の問題であり、自社負担で行っている。効率的で安全な物流、船型の大型化への対応に向けて計画的な浚渫を進めて頂きたい。

その他 論点：環境、観光 に関連する事項（次回以降に課題整理）

1. 外航クルーズ船のニーズは復活し、予約数はコロナ前を上回る状況である。
2. 塩釜港区の港奥部活性化策を検討しており、考慮いただきたい。

(開催状況)

